



インスピレーションになろう

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：小林 恵一 幹事：菅原 茂秋

地区目標 「ロータリーの原点に戻ろう」 BACK TO BASICS

クラブテーマ 「あなた自身のロータリーを生きる」 ところに奉仕と友情の灯をともそう

◆点鐘：小林 恵一 会長 ◆ロータリーソング：国歌・一月一日
◆司会：新藤 幸紀 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル

Yamagata West Rotary

第2833回例会

平成31年1月7日(月)

会長挨拶

小林 恵一 会長



新年あけましておめでとうございます。会員諸兄におかれましては、気持ちも新たに平成31年の新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は、ご承知の通り平成が31年で幕を閉じます。4月30日に天皇陛下がご退位され、5月1日に皇太子さまが即位されて元号が改まります。

天皇陛下のご退位は、前例では江戸後期の光格天皇以来200年振り、近代以降では初めてのことになります。皇位継承の儀式や改元に向けた準備も進んでおり、取り分け新元号への関心は徐々に高まっているようです。

元号制度は、645年の「大化」に始まり「平成」に至るまで247を数え、間もなく発表される新元号は248番目となります。

その選定にあたっては、良い意味を持つ、書きやすく読みやすい、俗用されていない等の条件があるようです。また、アルファベットの頭文字は混乱を避けるためM(明治)、T(大正)、S(昭和)、H(平成)と重ならないように配慮される見通しです。

政府関係筋によれば、複数の有識者に考案を打診しており絞り込み作業が本格化しているようです。

この他、今年は、政治的にも統一地方選や参議院選、G20開催、ラグビーやプレオリンピックなど数々のイベントが目白押しのものであります。

さて、つかの間の正月気分でしたが、新年最初の例会にあたり、新しく始まる時代がどんな未来に向かって進もうとしているのか気になる処ですが、私なりに気に留めたことを、二つほど話させていただきます。

第一は、宇宙は140億年近く前に誕生したとされますが、この先どうなるのか。これは宇宙の過去を詳しく調べることで未来を高い精度で予測できる。すばる望遠鏡を使い宇宙の過去をこれまでにない精度で観測できるようになり、その最新の研究によればこのまま続く可能性が高いが、物質を構成する原子までバラバラになって終わる道もあるとされています。仮に宇宙がバラバラになって終わるとしても1400億年以上も先の話で、人類の生存が直ちに脅かされるようにはならないらしい。今や宇宙は素粒子ニュートリノで捉える時代になって、夜空の星々など我々が可視光で捉える宇宙は全体のたった5%に過ぎず、他の95%はダークマター目に見えない暗黒物質で構成されていることが分かっている。宇宙は、大変興味深くこの先更に飛躍的

な解明が期待されます。

第二は、人工知能(AI)が人間の知性を超え、加速度的に進化する転換点を「シンギュラリティ」といいますが、米の未来学者は、その時期の到来を2045年と予想している。AIは、人間が思考するように振る舞うコンピューターのことを指します。

長い人類の進化の歴史はテクノロジー抜きには語れませんが、とりわけこの30年の変化は劇的で、ゲノムの解読や中山教授によるヒトIPS細胞の作製など、またインターネットの普及は人類にサイバー空間を作り出して来ました。

今のスマートフォンの性能は30年前のスーパーコンピューターを大きく上回り、これからの30年で更に加速して、現在のスパコンの性能をはるかにしのぐ量子コンピューターが使われ、人間の知性を人工知能(AI)が易々と超える。

2050年までの技術進化で人類は転換期を迎えると予測されています。

テクノロジーの進化が人間の生き方やあり方を変え、社会システムの仕組みを変えて根本的な問い直しを迫る。正に人間とは何か、答えを探る道が始まろうとしています。

未来は劇的に変わることだけは確実ですが、今、誰もが明確なビジョンを描けないでいる現実があり、当面これらを模索して行く年になるような気が致します。

脳裏をかすめたことの一部をご紹介させて頂きました。以上、年頭の会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

菅原 茂秋 幹事

●ポール・ハリス・フェロー第4回目、中山先生にバッジをいただいておりますので、会長の方からよろしくお願いいたします。

●1月のロータリーレートは、先月と変わらず1ドル112円でございますのでよろしくお願いいたします。

●第5ブロックのIMが開催されます。ご案内は改めてさせていただきますので、出欠のご回答を何卒よろしくお願いいたします。開催日時は3月2日、中山町中央公民館大ホールでの開催予定で、バスの手配もございまして、期日までにご回答いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

●会計から、下期に入りましたので1月末までに会費のお振込みの程、よろしくお願い申し上げます。

「地域ブランド力の向上」

株式会社 ダイバーシティメディア
代表取締役社長

吉村 和文氏



ただいまご紹介にあずかりましたダイバーシティメディア、ムービーオン、そしてパストラボ山形ワイヴァンズの社長を務めさせていただいております吉村でございます。今日は本当に新年の1番輝かしい例会の日にお呼び賜りまして誠にありがとうございます。このような機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。

先ほど皆さんで日の丸の前に国歌を歌われたということで、昨日からNHKで大河ドラマ『いだてん』が始まっております。まさにオリンピック前夜だな、と思っているところでありますけれども、そういう中で日本、この山形県が少しでも盛り上がり、皆さんの気持ちが明るくなって、地域やそれから自分たちの会社が輝いていくことを心から望むわけでございます。

おとといバスケットリーグのトップであります、大河チェアマンが山形にいらっしゃいまして、新しくモンテの社長になりました相田社長と私と食事をしました。その時にはもう既に2020年以降のスポーツ界はどうあるべきか、というような話に入っております。

山形県から、オリンピック関係といいますと遠藤利明先生、また様々な競技関係者がおられますけれども、オリンピックが最後ではないんです。オリンピックから実は始まるということでありまして、そこから先というものはなかなか語られてない。しかしながら、やっぱりそこまで続くためにはまずオリンピックに向けて1つ大きなアドバルーンを上げながらしっかりした取り組みをして、そして2020年以降もサステナブル、いわゆる持続可能なスポーツの振興であったり、スポーツビジネスの拡大であったり、そのようなものをしなければならないと思っております。

今日はそういうことも含めまして、「バスケットとは」「オリンピックとは」ではなくて、地域ブランド力の向上ということでプログラム委員会の木村ヤマザワ専務様とお話をさせていただきました。木村孝さんは実は今から20数年前、ちょうど私が31、2歳、そして木村さんが30代後半の時に、山形には民放が3局しかありませんで、フジテレビが見られないという状況でしたから、なんとかフジテレビを山形県民に見せたいということでケーブルテレビ山形という会社を作らせていただきました。その時に30億円も借金しなきゃならないと当時わかりませんでした。最初に門を叩いたのが今は頭取である長谷川吉茂さんでございまして、そこで「この人間と話せ」と言われた時に、本店第2営業部の部長代理をしておりました木村さんからお話を聞いていただきまして、夜中まで山形には存在しなかったケーブルテレビというものを我々以上に勉強していただいて、そして逆にご叱責をいただきながら我々が一緒に進んだ時のきっかけを作っていただいたのが木村さんでございます。以来、ずっと木村さんからは今でもいろんなところで、弱音を吐くと「何やってんだ、お前」みたいなことを言われ続けながらがんばっているところでございます。そして鈴木浩司さんも当時30代、それから何かあるたびに怒られながらやっております。先ほどいっぱい会社やっていると云われましたけれども、「お前、

これ以上広げるな」と、本業専念ということでありましてけれども、実は全部似通っておりまして、ファンビジネス、ブランド力向上の地域活性化産業でありまして、そういう展開を今しているということで、少しずつそういうこともお話をさせていただきながら一緒に歩んでいる方でございます。

それで、先ほど会長の話に宇宙がありました。最近、ZOZOTOWNの社長がロケットを買って宇宙に行く、ロケット旅行をするということで、まだ宇宙にも行ってないし、その術もないのにそういうことを打ち上げました。また、私も前から友人であります堀江貴文さんと十勝のほうでインターステラテクノロジズというロケットビジネスをしております。昨年『フォーブス』という雑誌で起業ランキング第1位が、アストロスケールという宇宙ゴミを片づける会社を選ばれました。今、経済界、日本のベンチャーというのはAIと宇宙なんです。そこが今1番のテーマになっている。でも宇宙なんて具体的にはまだないじゃないですか。でもそういうところを何で映しているかということ、自分たちの将来の会社の行き着く、フィロソフィといいますが、哲学といいますが、そういうところをそこに映写しているんです。アストロスケールもそうですし、ZOZOTOWNもそうですし、堀江さんのインターステラテクノロジズもそうです。重要なのは、これから社会産業というのはただ物流をする、ただ商品を作る、ただ我々みたいに放送を流す、というものではなくて、そこに価値を付けていくことが重要になってきて、今までの進化というのはテクノロジーの進化が日本の人間社会をどんどん広げていったわけで、これからはテクノロジーが日本語、人間のいわゆる将来、夢、未来を広げていくというものではなくて、これから出てくる地球のほんとに大変な時期をこのITやAIでなんとか維持していくためにAIがあるんです。

2050年には、海が70パーセントなくなる、海洋物が捕れない、大気汚染が50パーセント、食料がほとんど捕れないという状況の中で、大気汚染もある中でどうやってAIを作っていくかというようなことは、実は社会問題を解決するためにしていかなくちゃならないということで、これからの科学技術の進歩というのはむしろ問題解決というものが重要になってくる。まず最初にケーブル関係とかインターネット、両方とも放送通信事業も我々やっておりますので、そういう中で1つお話をさせていただきたいと思っております。逆説的に言うと、1番大切なのは、ある意味世界を考えつつ、見つつ、未来を考えつついる中で、もう1つ大切なのは我々の今の社会、地域社会を、友人や家族やそれから社員や仲間たちを、どういふふうにしてモチベーションを持ちながら少しでも幸せの輪を作っていくかということがテーマであります。それで我々「地域活性化」という今までタイトルの中でいろんなお話をさせていただいているということでございます。それで、これとこれが最初のこれからのいろんな様々な高負担社会であったり、高問題社会であったり、この地域社会をより活性化するというものを合致させることが、実は現実界を伴うこの山形県、今の時代のいわゆるブランド力の向上と自分たちのやるべき価値の向上につながっていくのではないかと、そういう前段のお話をさせていただきたいと思っております。まず様々な社会事業の中で転換というのがありまして、サプライヤー側からのいろんなものを流していく、いわゆる提供者側からの議論、理論ではございまして、アクセス側の主体性、いわゆる顧客であったり、あるいは一市民であったり、その方が要求するものをどんどん入手していくというのがこのサプライヤー側からアクセス側の主体性となります。そしてオンスケジュールからオンデマンドということで、スケジュールに沿った様々なものの考え方ではなくて、非決定論社会の中で自分たちが何をしたいかということから様々なものを転換していくとい

うのがこのオンスケジュール側からオンデマンドへ転換していくというものでございます。これが最終的に集い文化に醸成していくというものでございまして、こういう中で先ほどお話をさせていただいたように様々な価値を受け入れていかなきゃならないという時代、様々な問題を解決していかなきゃなんないという柔軟性がもう今要求される社会になっているのでございます。

私どもがやっておりますのがダイバーシティメディア、これも実はファン産業、必要な方だけが必要であるというものだと思います。少しでも入っていただければ、いろんな番組が見られるという意味でこれも1つのファン産業だと我々は捉えているわけです。山形交響楽団、ムービーオン、パスラボ山形、モンテディオ山形もそうだと思っております。その中でそれを愛してくれる人たちがどれぐらいいるか、どれぐらいの価値を感じているか、それが地域のブランドにつながってくると思っているところでございます。ではブランド価値とは何なのだと考えた時に、品質、性能、デザイン、商品のおいしさ、でも必ずそれを手にした時、あるいはそれを味わった時の喜びや幸せ感を提供するというものだと思います。この社会というものを考えた時に、例えばバスケットだったらバスケット会場に行って喜びを感じていただく。楽しんでもらう、そして応援していただくという魅力がなければならぬと思っております、これはモンテディオも山形交響楽団も一緒だと思います。そういうものが、山形にはたくさんございまして、これが重なっていくことで山形県の1つのブランド力になってくるのではないかと。これをエンタテインメントと我々は申しておりますけれども、スポーツビジネス、そして音楽や芸術や映画もあると認識しているところでございます。これが1人よがりではなく、受け渡されることによって本当にその価値は持続可能性を担保していくと思っております。評価が問われるというものは、それが自立するのは相手の手に渡ってからということだと思いますので、商品やサービスであってもやはりお客さまや県民や市民に手渡されて初めて価値として生きてくると思っているところでございます。それが幸せや喜びにつながっていけばありがたいと、そこまでしっかり考えた、マネジメントを我々はしていかなきゃなんないと思っております。実際大切なのはそのブランド価値をちゃんと担保するためにはやっぱり勝負事は勝たなきゃなんないとか、やはり映画はいい風景で感動を与えなきゃなんないとか、商品であればおいしくなきゃダメだとか、第1の原点を忘れずに考えていかなきゃなんないと思っております。

私どもの社内ではディフュージョンセオリーという言葉を作らせていただいております。価値を作るためにはこのディフュージョンセオリーが大切で、応援団をいっぱい作らないと求心力がないんです。バスケットで言いますとブースター、サッカーで言いますとサポーターということです。これがいっぱいになってくるとマジョリティのほうに伝播していく。マジョリティにも2つありまして、アーリーマジョリティとレーターマジョリティがありまして、ここまですべて1つのトレンドになります。いくらがんばってもこのラグードのところは手を出せない。昔で言うノンポリといいますが、あんまり社会の動きとは関係なくいらっしゃる方でございますので、ここまでの大体84パーセントをいかに取り組んでいくかということがそのブランドの伝播、商品やビジネスの1つの流れでもあるということでございます。我々が1番大切なその時に、アーリーアダプターを増やす。会場に来てもらう、あるいは実際に触ってもらう、そういうところがすごく大事だなと思っているところでございます。その次に、実、花、幹、根とあります。フィロソフィを考える時に、我々いつも議論しておりますのが、for what (フォアファット)、for whom (フォアフーム)、誰のために、何のためにということに常に議

論をします。バスケット、あるいは映画館、テレビ、なんでもそうですけども、自分たちの自己満足でやるわけではなくて、先ほど言ったアクセス側の主体性、お客さまの主体性、お客さまがどう感じていただくか、あるいは県民、市民の皆さんがそれを良しとして持続可能で思ってもらえるかということが1番重要でありまして、我々は目を背くことなく、しっかり見据えていきたいということで、5つのwhomと、ofとbyとforとtoとwith、of the whom、by the whom、for the whom、to the whomがあります。リンカーンがofとbyとそれからforまではゲティスバーグの演説の時に「of the people、by the people、for the people」と言いましたけれども、そこにtoとwith、「誰に向かって」「誰とともに」ということを足してミッションを叶えていきながらブランド力を高めていきたいと思っているところでございます。そういう中で今までのGNPだけではなくてGNA、国民総生産じゃなくて国民総魅力度、総文化力、総幸福度ということで進めてまいりたいと、今それぞれのポジションで魅力あふれる山形をどう作っていくかと企業サイドで動いているというのが我々のビジネスでございます。

パスラボという名前は「パスラボラトリー」から名前を引っぱらせていただいております。「パスラボラトリー」とは、いわゆるパスの研究所。パスというのはただ出せばいいというわけじゃなくて、相手がどういう状態であるかという、むしろ受け手側、アクセス側です。主体性に基づいてパスを出さないと成立しないということから来ております。例えば相手の目が不自由な方、手が不自由だったら出せるでしょうか。そしてパスの相手が子どもさんだったら、転がさなきゃなんない。パスというのはコミュニケーションツールにもなっていくんではないかと感じているところでございます。同じような言葉を、立場が違ったり、老若男女が違う方に同じ言葉を言っても通じません。やはりその人の立場、健康状態や年齢や様々な状態を考えてパスを出すということが実はパスラボラトリー、我々のパスの真髄だと思っております。

この間、サッカーの中田英寿くんが『ボヘミアン・ラブソディ』を観たいと、わざわざ東京から来まして、一般の人たちと一緒に観ていただきました。今まで、映画は5.2ぐらいの音量でしたが、『ボヘミアン・ラブソディ』は音量を7にしました。そうすると感動が違うんです。そして、「中田さんのあのキラークラスはどうやって出すんだ？」と聞いたら、「私、自分の出したいパスは出した時ない」と。「相手が欲しているパスしか出さない」とおっしゃっていました。また、田臥勇太くんともお会いした時に同じ話をしました。田臥くんも、あの瞬間「欲しいパス、相手が、シュートする人が欲しいパスしか俺は出さない」と。「これが欲しいんだろう」と思って出すということで、それも含めてその全体を把握する力というのはもう素晴らしいスキルを持っていると感じました。相手が必要なパスしか出さない。これがパスラボだとな我々は思っております、パスの真髄だということでもあります。今いろんなところでただのバスケット用語ではなくて、コミュニケーションツールとして、我々次の時代も含めて受け渡していかなきゃなんないと思っているところでございます。つなげるとかつながるといえるのは自分がつなげたいとか自分がつなげるんだということではなくて、やはり相手がつなげればいいな、つなぎたいというものを察知してこちらから動くというような形がやはり重要な地域社会ではないかと思っております。おかげさまでバスケットのほうもb2の中では全国18チーム中で6チーム、b1のライセンスをもらえる状況でございます。地域を活性化するために1歩でも上に行きたいと思っております。バス

委員会報告

ロータリー情報委員会 市村 清勝 委員長

今年もファイヤーサイドミーティングと西山会と一緒に開催をさせていただく予定であります。日時は2月13日の6時半から「白ぎく」さんをお借りして楽しくやらせていただきます。ぜひ予定を入れていただければ大変ありがたいと思います。

親睦・家族委員会 武田 岳彦 委員長

昨年のクリスマス家族会には多くに皆さまにご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。また、景品のご協賛にもたくさんいただきまして、心から感謝を申し上げます。皆さまの御厚情のおかげで、楽しい時間を過ごすことができたと思っております。ありがとうございました。

また、1月21日は新年会がございますので、ぜひ1人でも多くの皆さまよりご出席いただきますよう、よろしく願いをいたします。

1月の記念日をご紹介します。会員の方が12名、奥様が10名。お誕生日でございます。おめでとうございます。

ニコニコBOX

菅原茂秋さん／おかげさまで新社屋が年末に竣工しました。建設に協力いただきましたみなさまに感謝してニコニコします。また下期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

早川 徹さん／新年あけましておめでとうございます。年末のクリスマス家族会では私としてはほんとうにめずらしくじ運に恵まれ、すばらしい賞品を頂きました。ここに感謝の気持ちを込めてわずかですがニコニコさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。

伊庭公也さん／蔵王でスキーをするという長年の夢が叶いました。年末年始で4回。これからもいつでも行けると思うとウキウキします。山形にとって素晴らしい観光資源ですね。友人をたくさん連れて山形経済に貢献したいと思えます。

親睦・家族委員会／クリスマス家族会には多くの皆様・ご家族にご参加を頂きありがとうございました。ふゆき届きの点が多々ありましたが皆様のおかげで無事楽しい時間をすごすことが出来ました。ありがとうございます。次は1月21日の新年会もよろしくお願い致します。

ケットの普及ということで12月25日現在、バスケットアカデミーでは207名、小中学生がワイヴァンズのバスケットスクールに入っております。チアアカデミーは今103名まで増えてきているということで、約300名の方がワイヴァンズの次の世代を担っていただくような学校に入っているということでありまして、バスケットの試合だけではなくて、世代を超えて次の時代までつなげてまいりたいと考えておりますので、どうか皆さんからもお力添えを賜ればと思っておりますのでございます。

その他、映画祭や吉本興業さんと一緒にビジネスを展開しております。ワイヴァンズのユニフォームの左肩にマークが入っており、全国でうちだけ吉本興業さんからスポンサーとしていただいたものでございます。2月と3月もフットボールアワーさん、ココリコさんとバスケット会場で子どもたちと一緒にバスケットだけにとどまらずエンタテイメントをやっていただく、地域活性化までつなげていきたいと思っておりますのでございます。

今、テレビ界と通信界が大きく変わろうとしております。テレビは12月1日から4K、今の8倍の高画質が空から降ってくる。5Gですと、今の4Gの形態ではなくて、チェーンなく、ダウンロードなく、瞬時にすべてやれるというのが5Gでございます。今年3月には電波の許認可が落とされます。新しい時代へ突入するということで、オリンピックも近づいておりますけれども、放送通信や日本社会の大きな転換期が来ているということで、まさに新しい時代の幕開けでございます。

我々の理念、フィロソフィと申しますか、どこに我々は立っているんだと、なんのためにここに立って、なんのためにこれを行っているんだということをもう1度考えて進まなきゃならない。1番わかりやすいのはバスケットやサッカー、スポーツというのが、生活に密着しているものではないだけに、ある意味非日常の中での人間性の開花ができる場所だと私思っておりますので、そういう場所を体感していただき、これからも我々ががんばってまいりますので、西ロータリーの皆さまからは応援していただきたいと思えます。

ムービーオンを作った時には、大沼デパート7階で卓話をさせていただきました。そして一昨年はワイヴァンズの場所で、西ロータリークラブの例会をしていただきました。多くの方々から受け渡しを、そしてこの体感をしていただいて、この地域ブランド力の一翼を担うものまで育てていただければ幸いですと思っておりますので、どうか皆さまのお力をいただきまして、パストラポ、モンテディオ、そして映画文化を育てていただければ幸いです。簡単ではございますけれども、ちょうど時間になりましたので以上をもちまして私の卓話を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

あと、ワイヴァンズのチケットを同封させていただいておりますので、今月、来月観られますので、いらっしゃっていただければ幸いです。ありがとうございました。

<本日出席・修正出席>

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席 (1/7)	97名	55名	修正出席 (12/10)	97名	88名	84名	95.45%
メイクアップされた会員	(山形南) 伊藤 歩、風間 義朗 (山形中央) 風間 義朗、清野 伸昭、横山 隆太 (山形北) 安部 弘行、小林 廣之、晋道 純一、風間 義朗、大西 章泰、後藤 光政、横山 隆太、長岡 壽一、伊藤 歩 (山形東) 風間 義朗、後藤 光政、武田 良和、横山 隆太、澤渡 章						